

徳島県北東部の微小地震活動 97.10~06.12
Seismicity around North-East Tokushima Pref. (97.10-06.12)

○許斐直・松村一男・近藤和男
○Tadashi Konomi, Kazuo Matsumura
, Kazuo Kondo

Comparatively high seismicity exists around North- East Tokushima Pref. In this region, focal layer is about 10km thick and hypocenters are very shallow, so merely large earthquake produces strong intensity. Unified focal data by JMA is examined and the decline of seismicity from middle of 2004 to last of 2005. It is recognized that seismicity recovers a little in 2006. Seismicity gap has not filled up still enough and it needs careful watching of seismic activity.

1. はじめに

四国東部においては 1974 年末の微小地震観測の開始以来、地殻内地震活動は徳島県南部とともに北東部で比較的活発でマグニチュード4クラスの地震も主にこの地域で発生して来た。北東部では 1977 年 12 月石井付近 M3.9、1988 年石井付近の局地有感群発活動、1994 年 6 月徳島市付近 M4.0、2002 年 3 月石井付近 M4.2 などの地震があった。

気象庁の一体化震源を解析した前報（許斐ほか（2006））で 2004 年半ばから 2005 年にかけて徳島平野の部分で M2 以上の地震が減っている事を指摘し、やや規模の大きな地震の発生を警戒しつつ活動の推移に注目して来た。

2. 震源の分布

Fig.1 に 1997 年 10 月から 2006 年 12 月までの気象庁による一体化震源の分布を示した。図の左下の山地の部分から平野部へ出ると震源はやや深くなり中央構造線を越えるとさらに深さを増す。又、小松島の方向に向っても深くなっていく。

3. 時系列

Fig.2 に震源の分布図に対応した約 9 年間の地震発生の時系列を示す。上図はすべての地震に対するもの又下図は M2 以上の地震に対するものである。注目していた M2 以上の地震の減少は 2006 年には解消しつつあり目立った地震は今の所起こっていない。

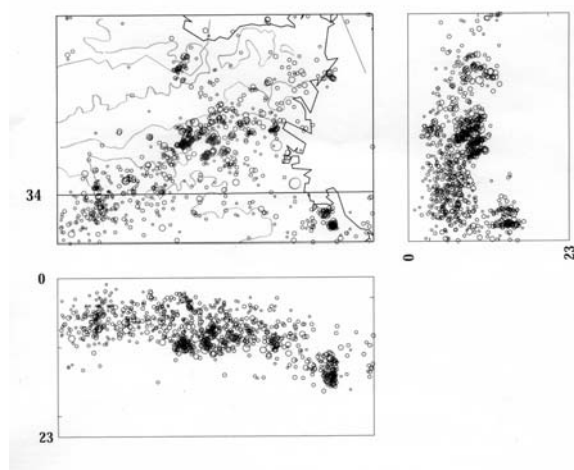


Fig.1 Hypocentral distribution of unified focuses around North- East Tokushima Pref. plotted between Oct. '97 and Dec. '06.

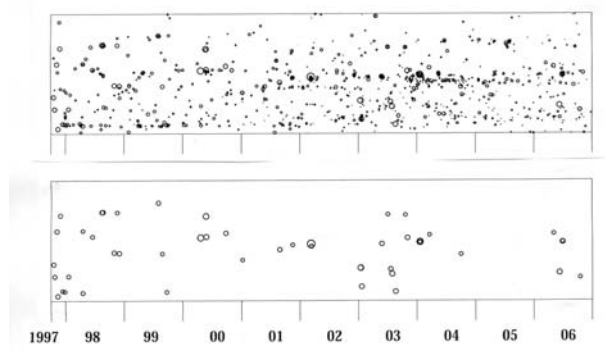


Fig.2 Temporal variation of seismic activity corresponds to Fig.1, upper is for all and lower is for M>2.0.